## **Market Flash**

発表日:2020年3月9日(月)

- ・日銀 緊急会合のトリガーがひかれた? (日経平均2万円割れ)
- ・中国の最悪期脱出に目が向かう時間帯も

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査 主任エコノミスト 藤代 宏一(Tel:03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き 12 ヶ月は 24000 近傍で推移しよう。
- ・USD/JPY は日米金融政策が様子見となる下、先行き 12 ヶ月は 105 程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ·FED は更なる利下げを実施するだろう。

## <#サウジ増産#日銀#緊急会合#中国新規感染者数が減少>

- ・6日の米国株は続落。VIXが50近傍へと上昇するなか、良好な雇用統計は全く材料視されず。 引けにかけて買い戻されるも、主要3指数は1%超下落して引け。米10年金利は一時0.7%割れ (9日の時間外取引で一時0.5%割れ)。カーブはブルフラット。金融市場は3月FOMCにおけ る"75bp"の追加利下げをほぼ完全に織り込み、4月FOMCのゼロ金利到達を50%程度の確率 で織り込んでいる。
- ・6日にローゼングレン・ボストン連銀総裁は「FEDは購入可能な資産を拡大する必要がある」としてゼロ金利制約直面後の政策ツール拡充案に言及。3月FOMCではQE再開を含め、資産購入の対象範囲拡大が俎上に載せられるかもしれない(米国債、政府系MBS以外の購入には法改正が必要)。
- ・サプライズは日曜のサウジアラビアの原油増産宣言。OPEC減産協議が決裂すると、同国は一転増産へと舵を切り、現在の日量970万バレルを最大1200万バレルまで引きげるという。体力勝負に持ち込む構えを示した。9日のWTI原油は一時30㎡、近傍まで急落。8日の中東株は最大で10%程度下落。これを嫌気して週明けの米国株先物は4%超下落。コモディティ依存の強い新興国は強いストレスに晒されている。
- ・9日の日経平均は4%程度下落して寄り付き直後に2万円割れ。金融市場では3月18-19日の金融 政策決定会合を待たずして緊急会合を開催のうえ、緩和措置を発表するとの観測が以前からあっ たが、この日経平均2万円割れがトリガーになるかもしれない。その場合、ETF購入枠を9-10 兆円へと拡大する可能性が考えられる。その他では貸出支援基金等を活用した資金繰り支援策が 打ち出されるだろう。終値ベースで2万円を割った場合は特に注目したい。
- ・ところで、新型コロナウィルスを巡る金融市場の関心は、アメリカ本土、イタリアを中心とする 欧州へと移っている。他方、発生源となった中国の状況は徐々に悪化ペースが和らいでおり、経

済活動も持ち直しの兆候が認められている。日次データでは、新規の感染者数が僅か44名へと減少。2日連続で100名を割り込むなど、中国に限って言えば、かなり状況が好転しつつある





